

平成28年度第3回霞ヶ浦自然観察会結果報告

「まるごと調査！恋瀬川の生き物とひととのかかわり」を実施しました。

開催日時：平成28年5月21日（土）午前9時から午後3時まで

開催場所：石岡市高浜および石岡市小幡

参加者：20名

今回は霞ヶ浦を代表する恋瀬川にスポットを当て、恋瀬川の下流域（河口・高浜入り）と上流域（恋瀬川支流・川又川）の2つの場所をまわり、川の上流域と下流域では景色はどのように変わるか、生息している生き物はどうか、水質は違うのか、川と人々とのかかわりはなど、「水辺のすこやかさ調べ」を使って“まるごと調査！”しました。

当日はさわやかな晴天に恵まれ、絶好の観察日和となりました。まずは行きのバスの中で水辺のすこやかさ調べや高浜入りの歴史について説明しているうちに最初の観察地、高浜入りに到着しました。早速、水辺のすこやかさ調べを皆さんで行い、生き物の採集、観察も行いました。昔は沈水植物やオニバスなどの浮葉植物が数多く見られたこの場所も、現在それらは見られなくなりました。それでもヨシ原が広がり、遠くに筑波山を望む風景は、往年の美しい風景を思わせました。また釣りをするボートや湖岸をサイクリングする人など、現在も多くの人々に親しまれています。高浜入りでは、フナの稚魚とウキゴリの稚魚も見つかりました。透視度計やCODのパックテストを使って水質についても調べました。

高浜入りでの観察の後、上流域の支流・川又川に移動しました。昼食・休憩を取ったあとはお待ちかねの生き物採集です。魚類もたくさん取れましたが、ここでは多くの水生昆虫の仲間が見つかりました。背中に卵を背負った子育て中のオスのコオイムシ、タイコウチ、ハグロトンボのヤゴ、ヘビトンボの幼虫など、いろいろな生き物が集まります。集まった生き物のなかにはきれいな水だけに生息するものも見つかりました。

そして本当にこの場所の水がきれいなのか、ここでも透視度やパックテストで水質を確認しました。その結果、透視度が高浜入りで約32cm、川又川が約70cm、CODの値は高浜入りが7mg/L、川又川が4mg/Lでした。予想通り、下流の高浜入りより、上流の川又川のほうが水質は良いことがわかりました。

恋瀬川は流域面積の約6割が森林と、霞ヶ浦流域のなかでは緑の多い場所です。すがすがしい5月の風を浴びて、楽しみながら恋瀬川について一日楽しく学習できました。

参加者の皆さん、パートナーの皆さん、当日はありがとうございました。

環境活動推進課 福井正人

今回、観察した生き物は次の通りです。

高浜入り：魚類（ギンブナ、ウキゴリ）、甲殻類（テナガエビ）

川又川：魚類（カワムツ、ドジョウ、ヌマチチブ、ヨシノボリ）、両生類（トウキョウダルマガエル、ツチガエル）、昆虫（タイコウチ、コオイムシ、コシマゲンゴロウ、ゲンゴロウの仲間の幼虫、ハグロトンボのヤゴ、コオニヤンマのヤゴ、オニヤンマのヤゴ、ヘビトンボの幼虫）、甲殻類（サワガニ、スジエビ、アメリカザリガニ）、貝類（カワニナ）

観察会の様子と観察した生き物の一部を御紹介します。



高浜入りでの調査の様子です。



透視度を調べています。



恋瀬川支流川又川です。



川の水は澄んでいました。右上はコオイムシです。



魚が捕れた！！



採集した生き物を観察しました。